F—26　家族周期段階による家事労働の変化

お茶の水女大家政　　吉田夫美子

目的　家庭における家事労働の内容を規定する要因には様々なものが考えられるが、その中のひとつに家族周期段階による家事労働の変化がある。家族が結婚から子供の出生，成長などを経て変化してゆくにつれて、家事労働のありようも当然変化してゆくと考えられる。この家事労働の家族周期段階による変化がどのようなものであるかを、小学生・中学生を持つ世帯と，それとは対照的な老人夫婦世帯の3グループの調査から明らかにしようと試みた。

方法　東京都中野区内から，小学生を持つ世帯，中学生を持つ世帯，老人夫婦世帯を選び老人夫婦世帯には面接による聞きとり調査を，小中学生を持つ世帯へはそれぞれの学校を通してのアンケート調査を行なった。調査の内容は一日の生活時間、家事労働に費やす時間、家事労働の頻度，作業の方法，家事作業に対する好き嫌い，家事労働に用いる設備子供の世話などである。

結果　3つのグループの結果を比較すると、小学生を持つ世帯と中学生を持つ世帯の間には大きな差が見られなかった。これに対して老人夫婦世帯では他の2つのグループにはない特徴が見られた。一般的に、家族数の少ない老人夫婦世帯では家事労働に費やす時間が短くまた頻度も低くなっている。